

「世界一美しい昆虫(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

(1) 「世界一美しい昆虫って何ですか?」

私は、理科の授業が始まる前に、5分間ほど、子どもたちの質問を受け付けることにしている。質問は理科に関わることなら何でもOKで、即答できることはその場で答え、即答できないことは調べてから、あとで伝えることにしている。私にとっても、子どもたちが科学の分野で、どんな事柄に興味や疑問を持っているのかを知ることができる、良い機会になっている。

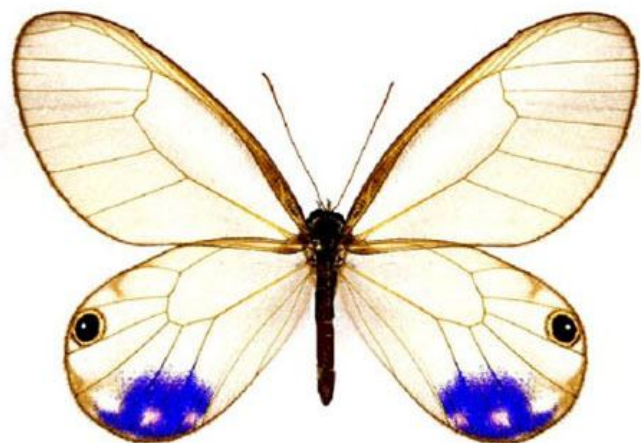
新教科「てつがく」の影響か、最近では「世界で一番〇〇な□□は何ですか?」という質問が多くなった。

「世界」が「宇宙」の場合もある。その中でも、すべてのクラスから同じ質問が出たのが「世界で一番美しい昆虫は何ですか?」というものであった。

「美しい」・・・このことばにはさまざまなとらえかたがある。そのとらえ方で、どの昆虫を選ぶかも変わってくる。私は虫があまり好きでないので、困ってしまっただが、一度は見たいと思っているチョウを紹介することにした。

(2) 透明な翅を持つ「スカシジャンメ」

それは、「スカシジャンメ」というチョウである。漢字では「透かし蛇の目」となる。「(翅が)透明なジャンメチョウ」の意味だ。チョウの翅は、鱗粉に覆われていて、不透明なのが普通である。しかしスカシジャンメの仲間(ベニスカシジャンメ属)は、翅のほとんどが透明で、まるでヒグラシの翅のようである。



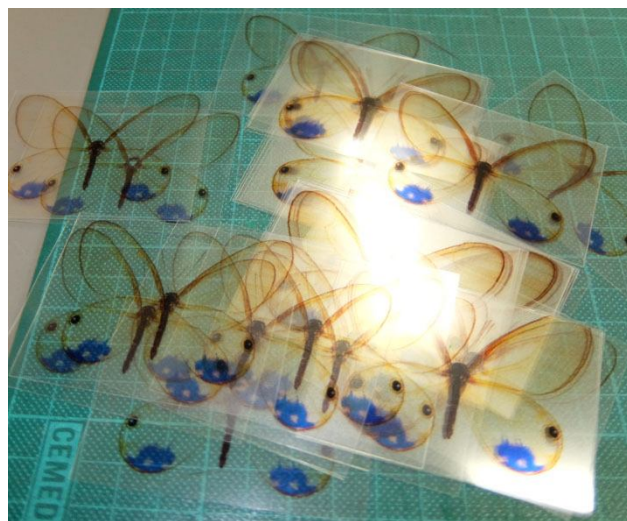
ルリモンスカシジャンメ *Cithaerias andromeda*

翅のほとんどは透明だが、一部に色や模様があり、それが種同定の鍵となる。いずれのスカシジャンメも、1~2対の眼状紋(目玉のような模様)があり、それが「ジャンメ(チョウ)」の由来となっている。

(3) スカシジャンメの「模型」をつくる

スカシジャンメは非常に美しい。飛んでいる姿は、まるで「花びらが舞っているよう」だという。残念ながら、メキシコや南アメリカ大陸にしかおらず、生きている姿を目にすることはできない。私はこの神秘的なチョウの美しさを、子どもたちに実感させたいと思い、「模型」を作らせることにした。

スカシジャンメの特徴は、何といても透明な翅である。アゲハの翅は不透明なので、模型もケント紙で間に合う。しかしスカシジャンメの場合は、透明なものに印刷する必要がある。便利なのが「OHP用のインクジェットフィルム」である。最近では、液晶プロジェクターや電子黒板が、授業プレゼンテーションの主流で、OHP(オーバー・ヘッド・プロジェクタ)なんて、いかにも「視聴覚機器」らしいものは、骨董的な価値を持つものになってしまった。しかし、フィルムそのものは今でも販売しているので、トンボやスカシジャンメの模型づくりには、大変重宝する。



これが、OHP用のインクジェットフィルムに、スカシジャンメの写真を印刷して、カットしたものである。私が一番好きな「ルリモンスカシジャンメ」を、およそ実物大に作ってある。「模型」といっても、これを1枚ずつ子どもたちに配って、ハサミで切り抜かせるだけだ。特に難しいのが「触角」なので、私は何度も練習してから、授業に臨むことにした。

※2ページ目に、印刷用のA4画像あり。

